



湖から回収した流木は廃棄処分せず、園芸用チップにして無料配布しています。詳細はホームページをご覧ください。酒匂川水系ダム管理事務所 工務課 TEL:0465-78-3711

三保ダム 流木配布 検索

ダムの運用において「放流」は重要な役割をもちます。

神奈川の水守り人

酒匂川水系ダム管理事務所 石川(優)さん



ダムは、水道水の確保や河川の水量を適切に保つため、主に取水口から発電所を経由して水を河川に流し、その水で発電しています。しかし、台風などで大量の水が湖に流れ込む際は、気象データ、下流への影響、季節ごとに貯水しておくべき水量などを総合的に判断し、ダムゲートからも放

流します。放流の前には、サイレンを鳴らすほかに、下流に警報車を走らせて、放流の注意・警報を行っています。時には4時間以上かけて河口まで行くこともあります。警報車とダム管理事務所は、無線で情報を共有し河川利用者と住民の安全に配慮しています。

ダム機能を維持する、点検・保守業務。

神奈川の水守り人

酒匂川水系ダム管理事務所 石川(正)さん



いつでも水道を使っていただくため、また安全なダムを維持するために、ダムから河口まで広い範囲に施設があり、ほぼ毎日どこかで点検をおこなっています。また、重要な施設の非常用発電機には、さらに予備を用意するなど常に想定外を意識しています。

さらに、湖面の維持管理のため、流木が大雨とともに上流や山から流れ込むと、船で回収します。全ての回収に1か月間近くかかることもあります。大変な作業ですが、湖に来て下さった方の「キレイな湖だね」という言葉を聞くと、とても誇らしい気持ちになります。



ダムゲートからの放流



大量の流木の回収

人生100年時代といわれていますが、県営水道も100年先を見据え、これからも安全で安心な水を安定的にお届けできるように「将来にわたり持続可能な水道」の実現を目指し、老朽化対策や耐震化の取組みを着実に続けてまいります。



この連載で、水道施設の老朽化対策や耐震化には、長い年月と、多くの費用がかかることがご理解いただけたと思います。県営水道では、新たな「水道事業経営計画」をこの4月からスタートさせます。この計画では、水道管の年間の更新率を現在の0.6〜0.7%から、今後5年間のうちに1%以上に引き上げることを目標とします。更新する際に用いる水道管は、100年以上使用することが期待できるので、更新率1%とは100年ですべての水道管の取り替えを一巡するペースを意味します。

最終回 「将来にわたり持続可能」な水道に向けて

「水道100歳時代」では、これまで10回にわたり県営水道の浄水場、配水池、水道管の更新や耐震化をどのようにしていくのかを紹介してきました。

22世紀につなぐインフラをめざして
水道
100歳
時代



▲写真：水道管を運ぶ様子（昭和初期、湘南地方）